

健康ふらざ

No.346

企画:日本医師会

見える範囲が徐々に狭くなり、 放置すると失明してしまう…それが緑内障です。

眼は上下左右に動き、両眼が互いの視野を補い合っています。

そのため視野が狭くなったことに自分自身では気づきにくく、

気づらさを自覚したときには

症状がかなり進行していることがあり、注意が必要です。

見づらいついてから治療して元に戻る眼の病気もありますが、

緑内障はそうではありません。

病気に気づいた時点での眼の機能を維持することが、

今できる緑内障の治療です。

そこで、**早期発見、早期治療**が極めて大切になります。

しかし、緑内障を必要以上に恐れることはありません。

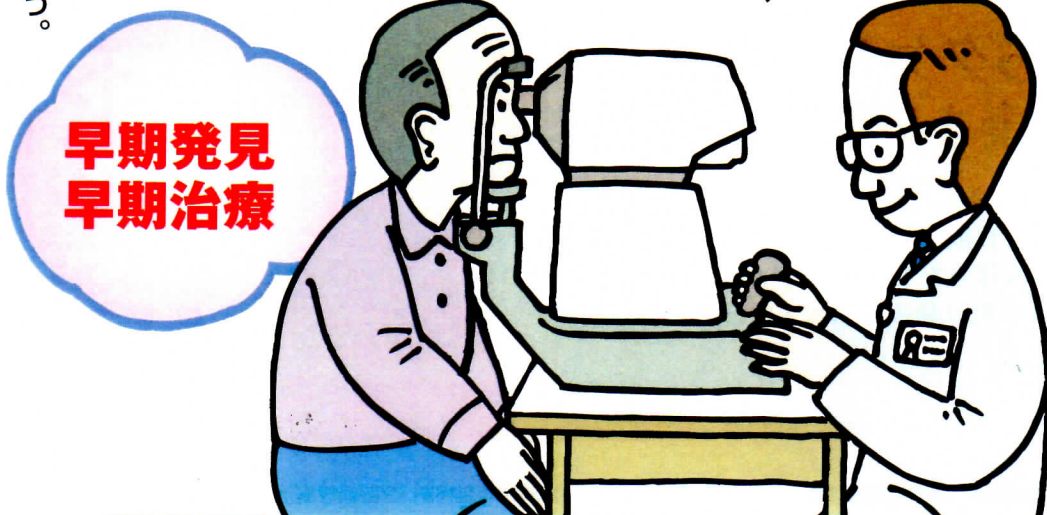
多くの患者さんが点眼治療をしながら

社会生活を問題なく送っています。

緑内障患者さんの約9割は検診等で偶然見つかっています。

気づかないうちに症状を進行させないためにも、

40歳以上の方は年に1回、**定期健康診断**や**眼科検診**を受けましょう。



**早期発見
早期治療**

- ◆40歳以上の方の約20人に1人は緑内障(多治見緑内障疫学調査)
- ◆特に高齢の方、近視の強い方、家族・親戚に緑内障のいる方は緑内障の割合が高い
- ◆塗り薬や内服でステロイドを処方されている方は眼圧チェックを
- ◆他の診療科にかかっている場合、緑内障であることをその科の医師に伝える(緑内障の場合、使えない薬があるため)
- ◆“見づらいのは年のせい、もっと悪くなったときに医者に行けばよい” というような自己判断は禁物。積極的に受診を

緑内障で
気をつけるべき
ポイント

指導:東京都・上野眼科医院院長 木村 泰朗

協賛: 優れた医薬品の創出を通じて
人々の健康と医療の未来に貢献するために



武田薬品工業株式会社

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。